

新着案内

NO. 1
2018年5月
伊丹西高校図書館



『崩れる脳を抱きしめて』(知念 実希人)

神奈川の病院に実習に来た研修医の碓氷は、脳腫瘍を患う女性・ユカリと出会い、心を通わせる。実習を終えた碓氷に、ユカリの死の知らせが届く。彼女はなぜ死んだのか？ 幻だったのか？ そして明かされる衝撃の真実とは？

『キラキラ共和国』(小川 糸)

夫からの詫び状、憧れの文豪からの葉書、大切な人への最後の手紙。伝えたい思い、聞きたかった言葉、承ります。鎌倉を舞台にした代書屋の物語。「ツバキ文具店」の続編。『小説幻冬』連載を単行本化。



『盤上の向日葵』(柚月 裕子)

山中で発見された白骨死体。現場に残された唯一の手がかりは伝説の名駒だった。4か月後、2人の刑事が竜昇戦の会場である天童に降り立つ。世紀の対局の先に待っていた、壮絶な結末とは。『読売プレミアム』連載を書籍化。

『たゆたえども沈まず』(原田 マハ)

売れない画家のフィンセント・ファン・ゴッホは、パリにいる画商の弟テオドルスの家に転がり込んでいた。そんな二人の前に、浮世絵を売りさばく日本人、林忠正が現れる。『パピルス』『小説幻冬』連載に加筆修正して単行本化。



『百貨の魔法』(村山 早紀)

時代の波に抗しきれず、「閉店が近いのでは？」との噂が飛び交う星野百貨店。エレベーターガール、新人コンシェルジュ、宝飾品売場のフロアマネージャー、テナントのスタッフ、創業者の一族らが、それぞれの立場で街の人びとに愛されてきたデパートを守ろうと、今日も売場に立ちつづける。百貨店で働く人たちと館内に住むと噂される「白い猫」が織りなす、魔法のような物語。

『魔力の胎動』(東野 圭吾)

自然現象を見事に言い当てる、彼女の不思議な“力”は何なのか。彼女は、悩める人たちを救えるのか。「ラプラスの魔女」の前日譚。『小説野性時代』掲載に書き下ろしを加えて単行本化。



『騙し絵の牙』(塩田 武士)

大手出版社で雑誌編集長を務める速水は、上司から廃刊を匂わされたことをきっかけに、組織に翻弄されていく。唯一無二の俳優・大泉洋を「あてがき」した社会派長編。『ダ・ヴィンチ』連載を加筆・修正して単行本化。

『星の子』(今村 夏子)

【第39回野間文芸新人賞受賞作品】
林ちひろは中学3年生。出生直後から病弱だった娘を救いたい一心で、ちひろの両親は「あやしい宗教」にのめり込んでいき、その信仰は少しずつ家族のかたちを歪めていく。『小説トリッパー』掲載を単行本化。



『ドラコニアの夢』(澁沢 竜彦)

魅惑的な文学世界、ドラコニア（龍彦の国）。「澁澤龍彦×文豪」をコンセプトに、新世代の読者に向けて編まれたアンソロジー。古今東西の文豪たちをめぐるエッセイを中心に小説、評論、紀行、対談など全26篇を収録する。

『バッタを倒しにアフリカへ』(前野 浩太郎)

【第71回毎日出版文化賞特別賞受賞作品】
【2018新書大賞受賞作品】
人類を救うため、そして「バッタに食べられたい」という自身の夢を叶えるため、昆虫学者である著者が、バッタ被害を食い止めるため単身サハラ砂漠に乗り込み、バッタと大人の事情を相手に繰り広げた死闘の日々を綴る。



『青空エール 映画ノベライズ』(河原 和音 原作 / 下川 香苗 著)

野球部の応援をする吹奏楽部員に憧れ、吹奏楽の名門、白翔高校に入学したつばさ。野球部の大介と交わした約束と、彼への恋心を支えに練習をがんばる。人気コミックスを実写化した、2016年8月公開映画のノベライズ。

『優しい死神の飼い方』(知念 実希人)

ゴールデンレトリバーの姿で地上に派遣された「死神」は、古い洋館を改装したホスピス「丘の上病院」に住むことに。そこでは7年前に、謎の“吸血鬼家族”殺人事件が起きていた。現役医師が描くハートフルミステリー。



『三日間の幸福』(三秋 隼)

未来を悲観して寿命の大半を売り払ったクスノキは、幸せを掴もうと躍起になるが、何をやっても裏目が出る。一番の幸せに気付いた頃には、寿命は2カ月を切っていた！ ウェブサイト『fafoo』掲載に加筆・修正して文庫化。

『翼を持つ少女』(山本 弘)

ビブリオバトルとは、本を通して人と知識をつなぐ知的ゲーム。SF小説が好きな15歳の伏木空は、同級生の誘いでビブリオバトル部に入部。部員はそれぞれ得意分野を持つ個性派揃い。空は張り切ってデビュー戦に臨む。紹介書籍は多種多様、「本を紹介する小説」という新分野を切り開く、本格的ビブリオバトル青春小説。



『ある犬のおはなし』(kaisei)

「冷たいへや、悲しいにおい。ぼくは少し、寂しくなりました。でもすぐに、あなたがむかえに来てくれるから。だから大丈夫。」この声は、届きますか？ 犬猫の殺処分ゼロを願って作られた手作り絵本を書籍化。



『魔法科高校の劣等生 16 四葉継承編』(佐島 勤)

『ちはやふる 37』(末次 由紀) 『妖精姫と灰色狼』(あやめ ゆう)

『浜村渚の計算ノート 8さつめ 虚数じかけの夏みかん』(青柳 碧人)

※ 皆さんからのリクエストを受け付けています！

新着案内

NO. 1
2018年5月
伊丹西高校図書館

～自然科学～



『脱ネット・スマホ中毒 炎上・犯罪に巻き込まれない！ SNS時代を生き抜く最新護身術 Ver.2.0』(遠藤 美季)

中高生に広がるスマホ依存、パートナー間のネット依存、低年齢化が進むオンラインゲーム依存。なぜハマるのか、どうすれば抜け出せるのかを会話形式で解説する。マンガ事例、書き込み式のセルフチェックなども掲載。

『その調理、9割の栄養捨ててます！ プロも絶賛 体が変わる食べ方のコツ』(東京慈恵会医科大学附属病院)

栄養素を失わない加熱の法則、食材を劣化させない保存テク、得する食材選び。今までよりも栄養を120%摂ることができる調理法や食べ方などを、最新の研究やデータをもとに紹介。



『ビーカーくんのゆかいな化学実験 その手順にはワケがある！』(うえたに夫婦)

スチールウールの燃焼実験から、ソックスレー抽出器によるゴマ油の抽出実験まで、20種類以上の化学実験を、ビーカーくんたち実験器具キャラクターが解説。漫画や図鑑を通じて彼らの活躍も紹介します。

～技術・工学～

『英国一家、日本を食べる』(マイケル・ブース)

築地市場に魅了され、洗練された日本人の食感に驚き、相撲部屋を訪れ、かつば橋、ラーメン横丁、味の素社へ。現代日本のリアルな料理の現場を「食いしん坊」と「ジャーナリスト」の複眼で探し、食べまくった英国一家の食紀行。



『スポーツをテクノロジーする トップアスリートの記録を引き出した技術の力』(北岡 哲子)

68個の五輪記録を生んだ旧国立競技場の走路の「土」、競泳を変えた水着の技術など。スポーツにおけるテクノロジーの役割を綴る。

『ドキュメント宇宙飛行士選抜試験』(大鐘 良一、小原 健右)

宇宙という極限の環境において自らの命を賭け、かつ他の乗組員の命をも預かる宇宙飛行士とはどういう職業なのか。その資質と人間力に迫る。宇宙飛行士選抜試験取材したNHKの番組スタッフによるドキュメンタリー。



～介護・看護・保育～

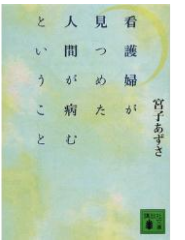


『素晴らしい体験をありがとう ある介護ヘルパーの手記』(井上 クミコ)

介護の時代、大切なのは支え合うこと。老人は支えられるだけの存在ではなく、介護者を支える貴重な存在でもある。介護歴11年の現役ヘルパーが心のふれあいを生き生きと綴る。

『看護婦が見つめた人間が病むということ』(宮子 あずさ)

病と向き合うことは、人生と向き合うこと。「傷ついた人だけが持つやさしさ」「母親であることと、病と闘うことの両立は難しい」など、ベテランの看護師が、人間の真の姿を見つめたエッセイ集。ベストセラー『看護婦が見つめた人間が死ぬということ』の続編。



『ルポ保育崩壊』(小林 美希)

時間内に食べ終えるのが至上命題の食事風景。バーンアウトする保育士たち。ひたすら利益追求に汲々とする企業立保育所の経営陣。知られざる厳しい現状を余すところなく描き出し、「保育の質」の低下に警鐘を鳴らす。

～芸術～



『もうぬげない』(ヨシタケ シンスケ)

【第26回けんぶち絵本の里大賞受賞作品】
【第9回MOE絵本屋さん大賞第1位受賞作品】

お風呂に入るために、お母さんに服を脱がされそうになったぼく。自分で脱ぐって言ったのに、お母さんが急いで脱がそうとするから、ひっかかって脱げなくなっちゃった。ひとりで脱ぐから大丈夫って、いろいろやってみたけれど。

『はたらく細胞 01』(清水 茜)

人間1人あたりの細胞の数、およそ60兆個！そこには細胞の数だけ仕事(ドラマ)がある！ウイルスや細菌が体内に侵入した時、アレルギー反応が起こった時、ケガをした時などなど、白血球と赤血球を中心とした体内細胞の人知れぬ活躍を描いた「細胞擬人化漫画」の話題作、ついに登場！



～キミも英語多読に挑戦しよう！～

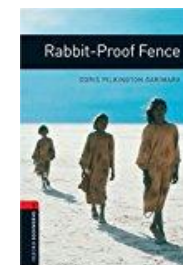
★多読とは？

やさしすぎるくらいの本から始めて、読む楽しさを味わいながら、とにかくたくさん本を読むことで、英文が読めるようになります。ゆっくりでもいいので、すこしずつ始めていきましょう。



『Billy Elliot』(Melvin Burgess)

勉強もスポーツもいまひとつという平凡な少年ビリー・エリオット。そんな彼のたったひとつの取り柄はなんとバレエ！男の子が踊りなんて、と家族は猛反対です。逆風の中でもバレエを続け、ビリーは夢をつかむことができるのでしょうか？映画「リトルダンサー」の物語。



『Rabbit-Proof Fence』(Doris Pilkington Garimara)

1931年のオーストラリアでは、先住民アボリジニの混血児を隔離し、白人社会に適応させる政策がとられていた。モリーたち少女三人は、母親の元から引き離され、収容所に隔離される。彼女たちは収容所を脱出し、母親の待つ故郷まで2400キロを逃走。感動のノンフィクション。